

平成 30 年度 第 2 回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

日 時 平成 31 年 3 月 14 日 (木) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 10 分

場 所 伊勢市役所本庁舎東館 5-3・5-4 会議室

出席委員 深草、花田、田口、高橋、田垣、尾関、伊寿、森、杉山、北川、小林、藤田、山口、江原

事 務 局 健康福祉部

・次長 鳥堂、参事 鈴木

・こども課 課長 藤原、副参事 戸上、保育係長 堀川、保育施設管理係長 須川、こども育成係長 福田、井坂

・健康課 課長 浦田、母子保健係長 樋口

・こども発達支援室 室長 岩佐

教育委員会事務局

・教育総務課 西野

・学校教育課 指導主事 垣澤

・社会教育課 課長 岩村、課長補佐 阿部

同 席 者 株式会社 ぎょうせい 加藤、中井

議 題

- (1) 「伊勢市子ども・子育て支援事業計画」平成 30 年度実績（見込）及び平成 31 年度計画について
- (2) (特定) 教育・保育施設の利用定員・確保策について
- (3) 就学前の子どもの教育・保育についての今年度の取り組み状況について
- (4) 第 2 期伊勢市子ども・子育て支援事業計画策定ニーズ調査結果報告（中間報告）
- (5) 今後の予定

- ・事務局より開会挨拶、委員・事務局紹介、資料確認、会長挨拶、会議成立宣言。

【事務局より】

議題（１）について説明（資料１）

【委員からの意見】

- 項目 16「ファミリー・サポート・センター事業の充実」について、高齢化も関係しているが、新規会員の募集の仕方は。また、応募状況や会員数の内訳は。

→毎年 8 月と 2 月に行う提供会員の養成講座について、広報・ホームページで周知している。

新規会員の数は掴んでいないが、H31.1 月末時点で提供会員 134 名、依頼会員 262 名、両方会員 14 名の計 382 名。年々会員数は減ってきている。

（「●」は委員意見・質問、「→」は事務局回答の意）

- 項目 24「子育て支援センターの充実」について、御菌が増えるということだが、需要が増えるということか。

→国道 2 3 号北側には子育て支援センターがなく、実際の利用はきらら館と小俣子育て支援センターに集中しているため、御菌地区にも新規開設することにより利用者の増を見込んでいる。

- 項目 52「児童虐待防止の支援の充実」について、今年度の状況について聞きたい。また、事例について聞きたい。

→H31.1 月末現在で虐待通告は 93 件、昨年 1 月末現在の数は 90 件であるため、少しずつ数が増えている状況。当市においては重篤事例は発生はしていないが、いつでも可能性があるということ認識しながら、児童相談所、関係機関と連携を図りながら見守り支援を行っている。

- 千葉のような事件は二度と起きて欲しくないので関係機関が協力して欲しい。

- 項目 50「不登校対策の推進」について、具体的に説明して欲しい。

→教育支援センター NEST で学校になかなか通えない子どもたちについての居場所づくり、市内小中学校全部において、子どもたちが安心して通えるような魅力ある学校づくり、居場所づくり、また絆づくりということで事業を推進している。学校だけでなくその他関係機関と協力し、学校復帰やその子が安心して過ごせる場所というものを一緒に探していく支援を進めている。

- 不登校＝いじめではない。市内小中学校で 1 3 0 名前後が不登校であり、その 8 割が中学生、2 割が小学生。子どもの数が減っているが、不登校は増えている。特に小学校の 4 年生、5 年生あたりの女の子からそういうものが出てくる。その子にとっては一生の問題なので、先生が一步踏み込めれば良いが、先生が指導しても難しい。その点、そのクラスの男の子は知って

おり、意外と解決策が見い出せる。学校では指導に苦慮していると思う。

- こども発達支援室と教育研究所の連携体制は。

→教育連携会議にて学校・教育研究所・発達支援室が2カ月に1回集まり、子どもの様子について発達や支援のあり方について意見交換をしている。

- 発達支援室の先生は非常に的確に子どもを見ている。子どもの命を守るのはやはり人であり、そういうことに長けた人が必要。

- 私の学校では、30日以上欠席をしている子が数名いる。ただ、生活が昼夜逆転している子、上の子が不登校になった影響で下の子もなど、不登校=いじめではない、いろんな形の不登校があると認識していただきたい。

私が職員にいじめのサインが出た場合のポイントを3つ、①即対応、②直接対話、③チームで対応。この3つを常に意識するよう職員には言っている。

- 不登校=いじめではなく、ほとんどの不登校の子は真面目で几帳面な子であり、感受性が非常に強い。

- NESTに行けていない子の対応は難しいと思うが、どうか。

→割合としてはごくわずかだがいるものの、各学校の先生が家庭訪問してつながりを持つようとしている。福祉機関や他機関との連携が今後も必要であり、長期にわたって見守っていく体制づくりを整えることが重要と考えている。

- 不登校は、いずれは直る。これは環境を変えることによって直る。市外への転校の手助けも場合によっては必要でそういう指導も必要である。

- 先生の授業そのものの魅力、おもしろくなければ当然に嫌になるので、いかにおもしろく楽しくできるかも大事である。

【事務局より】

議題（2）について説明（資料2-1、2-2）

- 十分な利用定員・確保量があるが、定員よりも申し込み者数の方が多いところが10園ぐらいあるので、第1希望に入れず、第2希望に移らざるを得ないということか。

→地域的なバランスもあり定員を超えての申し込みがあるところは、保育士不足などの受け入れ体制で待ってもらっている。確保体制が整っていても特に低年齢児については、受け入れ枠が少ないため、人気の園では待っていただいている。

- 保育園は、家の近くか、もしくは勤務先の途中にあるというところでないと、そこから勤務先に

向かうというのはなかなか難しいのでやむを得ず待つということになっていると思う。記事の出た2年前と改善していないのかと言われても仕方がないため、今後も前向きに検討が必要である。

- 兄弟はなるべく同じにしてあげたい。保育士・看護師不足なら、伊勢の保育所で勤めたら祝い金がもらえるとか、住宅を紹介してもらえるととか、半額になるとか、そうしないといい人材はなかなか確保しにくい。伊勢でやってみたいという条件づくりをし、保育士の離職に歯止めをかけていかないといけない。
- 大学生幼児教育コースの全員が保育園、幼稚園に勤めず、ほかのところに就職してしまっている。給与が低いという部分が大きいので、待遇の部分で変えていかないと、と感じる。
- 参考での紹介だが、南伊勢町では定住対策として第1子から出産祝い金10万円に拡充、小中学校の給食費の半額補助、医療費の無料化を高校生まで広げるなどを展開している。市町村でも人口の競争であるため伊勢市も難しくなってくる。

【事務局より】

議題（3）について説明（資料3）

→議題（1）で上がった質問に対して、幼稚園教育関係者への質向上について、幼稚園教育対象の研修会へ186名の参加。内容は生活習慣の確立をテーマとした乳幼児研修や発達支援にかかわる子供たちの理解を深める目的での特別支援教育研修会や講演会。今後も質の向上に努める。

- これらの取組は非常に効果があると思ので、伊勢のいいところとして継続して欲しい。
- 項目「小学校教員の幼稚園・保育所での保育参観」について、小学校の先生が行くことはあまりないため、相互交流として非常にいいので今後もいろいろな工夫をお願いしたい。
- 項目「小学校へのスムーズな就学にむけての取組」について、小学校の統合について、この1の「①、②、③」の対応が、園とすぐ近くの小学校であれば非常に交流も取りやすいが、小学校の統合により遠くなった場合、施設が非常に使いにくくなり、交流も薄くなる。統合の際には子供たちが参加できるような手だてを考えてもらいたい。
- 統廃合による跡地利用の学校の校舎等をどうするか、更地にするのかというのは、耐震という面もあるが、小学校がその地域のコミュニティーとして機能した側面があるため、どのような形にするか課題と考える。
- 項目「特別支援教育における支援体制の整備の促進」について、子どもの発達支援の教育により子どもの発達障害の理解が深まっているが、もっと地域的な理解や周りの大人、教師全てに理解が深まるような学習、問題として、市全体として取り上げてほしい。子どもだけの特別なもので

はなく、大人になってからも問題になるということもあるので、周りの大人の環境づくり、支援者、理解者を増やして欲しい。

- 学校や幼稚園の先生からの子供たちのケアだけでなく、親のケアをどこかでしていただけたらと思う。自分の子はしっかりと育つよう一生懸命育てているが、反抗期に子から親、親から子に伝えたいことがうまく伝えられなくて言葉が雑になったりただ怒ってしまったりするので、出産時の対応のように親が何かのときにはこの人に聞こうと思う、ずっとつながるような方法というのを考えて欲しい。
- 進学や体の成長のこと等デリケートな相談は付き合いの短いグループ間では敷居が高いと感じる。生まれたばかりの赤ちゃんのときから継続的に相談をしている人がいれば話しやすいのではないかと思うので、社会的な団体や女性団体などの活動を通してそういったことに対応できないか考えて欲しい。
- 特に転勤で伊勢に来た保護者は知り合いが少なく大変であると考え。伊勢市にはこういった親へのサポートはあるか。
→親のケア、特に小学校へ入ってから、臨床心理士が常駐しながら、保護者の方から相談していただくような機関もある。健康課の保育士さんが一緒に就学のところにもかかわっていただきながら、特に支援が要るお子さんについては、ずっとサポートが続いているのが現状。
- その子たちが大きくなってきて、少しでも問題が少なくなればいい、という感じで今進めていただいているということによろしいですね。
→特別支援に関しては、中学校、義務教育を上げる段階で支援が途切れてしまわないように、特別支援コーディネーターの会議など他の福祉機関とも連携している。
- いい問題提起である。先生は正義で子供だけが悪いという感覚は取り去らなければいけないと。大人は子供の鏡でありますし、子供もまた大人の鑑でありますし、両者をどう関係を捉えて直すかというのを今、ちょうど問われている最中だと思う。
- 現場では、担任や管理職が対応する場合もあるが、保護者によってはやはり敷居が高く言えないので、スクールカウンセラーが効果を発揮している場面がある。保護者が悩んでスクールカウンセラーに話を聞いて欲しいということもある。そのため、スクールカウンセラーには、もっと来て欲しい、長くいて欲しい。
中学校にも行くので、兄弟で連携がとれる場合もあるため、現場では本当に助かっており、それを求める保護者も多い。
- スクールカウンセラーにみてもらおうと、何も問題なくても、何の問題ないという安心感が得られる。

- ・事務局より計画策定に係る諮問書の提出、会長受理

【事務局より】

議題（４）について説明（アンケート中間報告、資料４－１・４－２）

【委員からの意見】

- 確実に人口は減っていくため、人口を増やしていくには伊勢市に来て、伊勢市で子育てしたい、保育教育を受けたい、出産したいという、子育ての環境を作るしかないと思う。
- 伊勢市の母親の就労状況が国や県を上回っているということだが、国とか県は大体何%ぐらいか。
→例えば、３０から３４歳で６０%が伊勢市だとしたら、国や県は５０%台前半の就業率。
- ２９ページの家庭教育と学校教育についてのアンケート、「家族や他人を思いやり、やさしくすること」というのは、家庭では高いが、学校教育では同じ項目はそんなに高くなく、「のびのび育て自主的や意欲、個性を伸ばすこと」ということになっている。日本の学校は、アメリカ的になりつつあるなど感じる。
- 命を守る中で、幼児、小学生、中学生が安心・安全で暮らせる伊勢市になるためには、地域、それぞれの団体も含め、この子ども・子育て会議の伊勢の項目の意識の中で置いていただいてぜひ取り組みを進めていただきたい。
→これまでの交通安全、防犯に加えて防災という観点は必要だと思いますので、検討などしていきたいと思います。
- 防災は地域で取り組んでおり、授業中、保育中に事態が起こったとき、ほとんどのご父兄の方は迎えに走ると思う。学校の先生方の場合は、地域でどう連帯していくのか、連携のシステム作りを考えていかないといけない。結局、周囲を巻き込んで起こるため、その辺のことも検証しながら、繰り返しやっていって欲しい。

【事務局より】

議題（５）について説明（資料４－３）

【その他】

議事録のホームページへの公開に関する事、委員任期満了による会議運営協力謝辞、所属組織へ次候補選出依頼をしていることの説明。